

教えない

「ずいぶん伸びましたね」。お隣の境に幾夏も過ぎし枝葉がボサボサになったモクレンがある。落葉になる前に刈ろうとK造園さんに来ていただいた。チョコキッ！チョコキッ！秋晴れの朝の庭に響くさわやかなハサミの音。園児たちも柵越しにじっと眺めながら、「木の床屋さんだね〜」あまりに興味津々、見続けるのでKさんが木の上から降りて来た。手には今切った枝の端。剪定ばさみを取り出し、目の前で枝を縦に裂くと中から米粒のような白いものがポロポロと。

「これ、なんだかわかる？」「お米？」「似てるけど、違う」「種？」「残念〜」「卵？」「そう、卵。では何の卵かわかるかな？」。しばらく考えて「けむし？」「毛虫に卵、あったっけ？」「そうか、では蛾？」「蛾ではない」「ちょうちょ？」「ちょうちょでもない」。職員も一緒に考えるが分からない。そうなるに俄然はりきる、つくしの年長さんたち。大急ぎでお部屋に戻る。何をするかと思いきや、図鑑を引っ張り出してにらめっこ。「これかな〜」10分ほどたったか、メモを手に戻ってきた。5つほど案をだしたという。

「言ってごらん」とKさん。「カブト虫？」「違う」「ヘビ？」「ヘビではない」なかなか当たらない。そして、最後の案。「セミ…ですか？」

「そう、その通り！よくわかったね。セミはモクレンが大好きなの」

「そうか、だからここにセミがたくさんいたのか」。

さすが夏もほぼ皆勤できていた子どもたち、よく見てる。

しかし、Kさんはそれで終わらない。

「では、次の問題。セミはどこで冬を越す？」

「土の中…」「そうだね。では、どうやって土の中に降りてくるの？」

「幼虫だからはって降りる…」「そんなの見たことある？」「……」「ないよね」

「分からない。どうやって降りるの？」「答えは…」「こたえは？」

「お・し・え・な・い。ゆっくり自分たちで考えて。また来るからね」「え〜」



おもしろいやりととりだなあと眺めていた。なんだろう、どうしてだろう。

心弾ませ考えつつける子どもたちの姿がまぶしかった。

Kさんが言った「教えない」という言葉。保育園「教育」の真髄かもしれないと思った。出来合いの知識を教え込むのではなく、「ゆっくり」「自分たちで」考えつづけ「また来る」ときを楽しみにする。これこそ、一生ものの「学びの心」ではないか。そして、これこそ「つくし」のあふれる自然を舞台に多くの人と心かよわせながら身に着けてほしいものの一つ。

「教えない」。教えることなどできない。でも、「つくし」の子たちは皆、しっかり身に着けてくれるのです。 (つくし保育園園長 つだ かずお)

<だいで教会より> クリスマス礼拝へのお誘い

お庭のチャペルでほんもののクリスマスを味わいましょう。

イエスさまのお話。心あたたまるキャロル。オルガンの

やさしい響き。楽しいクリスマス会とお食事も

12月25日(日)10:30~

冬はインフルエンザや、そのほかの感染症が流行します。外出先から帰ってきたら、うがい・手洗いを習慣に。うがいができない小さいお子さまは、水分補給で口の中をうるおすことでも細菌やウイルスの繁殖を抑える効果があります。また、ご家庭でお出かけされる予定もあるかと思いますが、できるだけ人ごみを避け、ゆったりと過ごしていただけたらと思います。